

国の文化審議会が新たに登録有形文化財に登録するよう
答申した建造物について

令和元年7月19日(金)に開催された国の文化審議会において、県内では新たに7件の建造物を登録有形文化財に登録するよう文部科学大臣に答申されました。

○登録有形文化財(建造物)の登録 7件・・・・・・・・・・・・・・・・資料

| | | |
|----------|-------|----|
| 白木屋醤油店主屋 | (長浜市) | 1件 |
| 旧四居家住宅主屋 | (") | 1件 |
| 旧常喜医院主屋 | (米原市) | 1件 |
| 旧常喜医院書院 | (") | 1件 |
| 旧常喜医院東蔵 | (") | 1件 |
| 旧常喜医院西蔵 | (") | 1件 |
| 旧常喜医院馬小屋 | (") | 1件 |

○登録有形文化財（建造物）に新たに登録される建造物の概要

白木屋醤油店屋（1件）

| | |
|--------------|--|
| 名称 | 白木屋醤油店主屋 [シロキヤショウユテンシユোক] |
| 員数 | 1棟 |
| 所在地 | 滋賀県長浜市木之本町木之本932 |
| 建築年代 | 江戸末期 |
| 登録基準 | 1 国土の歴史的景観に寄与しているもの |
| 構造及び形式並びに大きさ | 木造2階建、瓦葺、建築面積95㎡ |
| 特徴・評価 | 白木屋醤油店は旧北国街道の木之本宿に所在し、代々醤油の醸造業を営んできました。主屋は木造2階建てで、1階は正面右端の通り土間に沿って左側に3室を並べ、土間の正面寄りを店舗としています。2階は正面側に居室を2室並べます。建築年代は元治元年（1864年）の「宿内絵図」の同位置に同平面の建物が描かれており、この時までには建てられたことが分かりますが、柱などの部材の経年程度から、江戸末期と考えられます。建築当初の形式を比較的良く残し、木之本宿における醤油醸造を営む町家の建造物として貴重です。 |



1 白木屋醤油店主屋 外観



2 白木屋醤油店主屋 内部

旧四居家住宅主屋（1件）

| | |
|--------------|---|
| 名称 | 旧四居家住宅主屋 [キウヨツイケン ユウタクシユウク] |
| 員数 | 1棟 |
| 所在地 | 滋賀県長浜市元浜町131 |
| 建築年代 | 江戸中期／平成21年改修 |
| 登録基準 | 2 造形の規範となっているもの |
| 構造及び形式並びに大きさ | 木造平屋建、金属板葺、建築面積141㎡ |
| 特徴・評価 | <p>長浜市元浜町の中心部に位置する旧四居家住宅主屋は、現在は長浜市の所有となっていますが、公有化前は、16代続いた油商であったと伝わります。主屋は木造平屋建で、間口5間半、奥行7間と周辺の町家と比較して規模が大きく、屋根の両端に卯建を立ち上げ、建物の建ちが低く、主要な柱は通し柱としています。平成21年の修理工事で、通りに面した正面側にバツタリ床几といわれる畳んで収納できる縁台と藪戸を並べた建築当初の姿に復原されました。建築年代は部材の経年程度や、建ちが低く通し柱とする構造から江戸中期と推定され、長浜周辺における最古級の町家として貴重な建造物です。</p> |



1 旧四居家住宅主屋 外観



2 旧四居家住宅主屋 内部

旧常喜医院主屋ほか4件（5件）

| | |
|--------------|--|
| 所在地 | 滋賀県米原市堂谷字北小路212 |
| 名称 | 旧常喜医院主屋 [キョウジ ヨウキインシヨク] |
| 建築年代 | 明治37(1904年)／大正14年(1925年)頃・昭和5年(1930年)頃改修 |
| 登録基準 | 2 造形の規範となっているもの |
| 構造及び形式並びに大きさ | 木造2階建、瓦葺、建築面積231㎡ |
| 名称 | 旧常喜医院書院 [キョウジ ヨウキインシヨイン] |
| 建築年代 | 昭和5年(1930年)頃 |
| 登録基準 | 1 国土の歴史的景観に寄与しているもの |
| 構造及び形式並びに大きさ | 木造平屋建、瓦葺、建築面積62㎡ |
| 名称 | 旧常喜医院東蔵 [キョウジ ヨウキインヒガシクラ] |
| 建築年代 | 大正4年(1915年)／昭和前期移築 |
| 登録基準 | 1 国土の歴史的景観に寄与しているもの |
| 構造及び形式並びに大きさ | 木造2階建、瓦葺、建築面積21㎡ |
| 名称 | 旧常喜医院西蔵 [キョウジ ヨウキインニシクラ] |
| 建築年代 | 明治後期 |
| 登録基準 | 1 国土の歴史的景観に寄与しているもの |
| 構造及び形式並びに大きさ | 木造2階建、瓦葺、建築面積35㎡ |
| 名称 | 旧常喜医院馬小屋 [キョウジ ヨウキインウマゴヤ] |
| 建築年代 | 大正後期 |
| 登録基準 | 1 国土の歴史的景観に寄与しているもの |
| 構造及び形式並びに大きさ | 木造平屋建、瓦葺、建築面積18㎡ |
| 特徴・評価 | <p>旧常喜医院は代々医者を務めた常喜家の旧宅であり、現当主は14代目にあたります。広大な敷地の中央に主屋が建ち、主屋に接続して庭を取り囲むように書院が建ちます。また、敷地の各所には西蔵、東蔵、馬小屋が建っています。</p> <p>主屋は、切妻造瓦葺二階建てで、一階玄関廻りに医院としての機能を集め、主屋の奥と二階は居住部分としています。建築年代は所蔵史料から明治37年（1904年）と推定され、その後幾度かの改修が行われ、その際の図面などが残されており、明治から昭和にかけての地域医療の担い手としての医院の変遷を辿ることができます。</p> <p>書院は、入母屋造瓦葺で周囲に庇を廻らし、複雑な屋根形式となっています。庇部分は、庭園に面して畳廊下とし、居室には2畳の畳床や付書院、違い棚などの洗練された座敷飾りが設けられています。また、龍や富士の欄間彫刻や障子中央に小さな障子を備える猫間障子など意匠にも富んでいます。建築年代は当時の設計図から昭和5年（1930年）頃と考えられ、近代の優れた座敷建築として貴重です。</p> <p>東蔵は、切妻造瓦葺で、内部は土壁の上に温湿度の調整と防埃のための板が張られており、医学資料等を収蔵する文庫蔵として使われていました。外壁の両妻には常喜家の</p> |

家紋が、二階窓上には見事な龍の饅絵が描かれています。建築年代は棟木墨書より大正4年（1915年）と分かります。

また、西蔵は切妻造瓦葺で、米や雑穀等を納めた蔵です。建築年代は所蔵史料から明治後期と推定されます。東蔵・西蔵とも地域医療の担い手の屋敷構えを構成する建築として重要です。

馬小屋は、出入口を吊戸として敷居を設けず、内法高を高くした馬小屋の機能を有しています。往診等に馬が使われていたことを今日に伝えています。建築年代は家伝や部材の経年程度により、大正後期と推定されます。

旧常喜医院は、代々医者を務めた旧宅の主要な建物が良く残り、各建物の建築の質も高く、長年周辺地域の医療を支え続けた地方医院の屋敷構えを伝える遺構として重要です。



1 旧常喜医院主屋 外観



2 旧常喜医院主屋 診察室



3 旧常喜医院書院 外観



4 旧常喜医院書院 書院の間



5 旧常喜医院東蔵 外観



6 旧常喜医院西蔵 外観



7 旧常喜医院馬小屋 外観